

伝統の技で 世界に果敢に挑戦

橋本 英宗さん (木之本町木之本)
丸三ハシモト株式会社 代表取締役

撮影場所：同社工場内

木之本町のひっそりとした集落の中に、100年を超える和楽器の絃づくりの伝統を守り、そして世界へ果敢に挑戦する若き職人がいます。

橋本英宗(ひでかず)さん、39歳。先日、一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会の平成25年度伝統的工芸品産業大賞で準グランプリ(作り手部門)を受賞されました。

橋本さんは、大学を卒業して本格的に稼業を継ぎました。絃づくりは、「合糸」「撚糸」「染色」「節取り」など12以上の工程を経て完成しますが、先代までは、親のやり方を見て技を覚え、自身の感覚を主に頼って絃を作ってきたようです。しかし、橋本さんは「感覚だけだと応用が利きにくくなるし、次の世代に技を正確に伝えきれない」と考え、すべての作業に対して「なぜ

行うのか、どういう仕組みでこうなるのか」など理論づけて覚えたと言います。特にお客さんとのやりとりでは、「例えば、三味線ですと、『前に音が出るようにしてほしい』、『後ろにズシッと響くようにしてほしい』など非常に抽象的な音色の表現で依頼がきます。このとき、どの工程で改良を加えたらいいかを導き出すにはしっかり理論づけて技を覚える必要があった」と言います。こうしたお客さんとのやりとりができ、満足させるまで10年を要しました。

理論派橋本さんの技の応用力は、350種類以上の絃を作るところにも表れていますが、その凄さは和楽器にとどまらず、さらにウクレレ、韓国の伽耶琴などの絹弦づくりへと広がっています。

そして、現在は、3000年の歴史を誇る中国の伝統楽器である「古琴」の絃の開発に成功し、「丸三ハシモトブランド」の中国進出が始まりました。

橋本さんの目標は、和楽器絃メーカーの枠を超えて世界NO.1の絹絃メーカーになることだそうです。

最後に、どうしてそこまで果敢に挑戦するのかの質問には、「会社をいかに残していくかです。会社を残せば技術が残せます。そして、何より子どもが『お父さんの会社すごいね』と、魅力を感じてもらわないと次世代へつながりませんからね。だから挑戦するんです」と笑顔で答えました。

橋本さんの挑戦はこれからも続きます。

Smile Smile

※このコーナーでは、市内在住のお子さんたちの写真を掲載します。笑顔と元気あふれるお子さんたちの写真を募集しています。掲載を希望する人は市民広報室(☎65-6504)まで申込みください。

くさん笑って泣いて大きくなあれ！
いつも仲よし姉弟！ お話をして楽しませてくれたり可愛い笑顔に癒されてるよ。たくさん笑って泣いて大きくなあれ！



坂東 汰星ちゃん(平成25年8月生まれ)右
沙星ちゃん(平成22年9月生まれ)左
(七条町)

長谷川 芽生ちゃん(平成25年4月生まれ)
(室町)



毎日、色々な表情を見せてくれる芽生ちゃん。芽生が笑うと清く癒されるよ。(5)

これからも、いっぱい笑顔みせてね☆

まちの人口	平成26年3月1日現在	人口 122,560人	男 59,909人	女 62,651人	世帯数 44,348世帯
	平成26年2月中の異動	転入 182人	転出 202人	出生 70人	死亡 126人 婚姻 41件



この印刷物は、有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。また、大豆油インキを包含した植物油インキと環境に配慮した再生紙を使用しています。

「広報ながはま」は、各自治会を通じてお届けすることを原則としていますが、市民交流センターや図書館、公民館など市の公共施設にも置いています。市のホームページでもご覧いただけます。点字広報、声の広報を作成していますので、ご希望の人は市民広報室まで。